

中華人民共和国 建国70周年を迎えて

洲澤 輝

<中華人民共和国 建国70周年を迎えて>

中国は先月10月1日に建国70周年を迎えました。中国各地ではお祝いムードが沸き起こり、上海をはじめ他都市でも街中に国旗が揚げられ、建国70周年のポスターや70周年を祝うオブジェなどが至る所に飾られていました。日本にも建国記念日はありますが、中国のようにここまで盛大ではないイメージがあります。今月のハッピーメールでは、中国現地で感じた街の様子についてお届けしたいと思います。



【街全体が建国記念を祝っている(上海市内の美術館)】

私は、建国70周年に当たる国慶節の数日前に高速鉄道（新幹線）に乗る機会がありました。高速鉄道の駅で感じたことは、北京行きの列車のみ、セキュリティが特に厳しかった事です。普段、高速鉄道に乗る際には、必ず駅の入口で荷物検査と身体検査が行われますが、北京では建国70周年に合わせて10月1日に記念行事と軍事パレードが行われるため、今回に限っては、北京行きの便のみ、追加で更にもう一度荷物検査と身体検査が行われました。また、多数の警察官や警備員が検査場付近で待機しているなど物々しい雰囲気でした。

<テレビ番組の変化>

国慶節が近づくにつれ、普段何気なく見ているテレビ番組にも変化が現れてきました。建国70周年を意識したテレビ番組が増えていき、中でも特に印象的だったのが、「陸戦之王」というドラマです。これは軍隊に入隊した青年たちの物語であり、日々の過酷な訓練を通じて青年たちが成長していく様子を映しています。時に激しい戦闘シーンも見受けられました。このドラマは現代青年の国への愛国心を表したドラマであるということから、いかにも建国記念日に相応しいドラマであることが分かります。

<テレビで放映された軍事パレード>

私は、建国記念日である10月1日の午前中は

自宅でテレビを観て過ごしていました。すると、突然テレビから建国記念日を祝う行事の放送が始まり、更に軍事パレードも始まりました。

私は初めてテレビを通じて中国の軍事パレードを見ました。日本でも軍事パレードの様子はニュースで取り上げられていたと思いますが、中国現地では日本のニュースでは放映されていない部分も見ることができ、その迫力に圧倒されました。軍事パレードでは、中国の陸海空軍が所有する戦車や戦闘機、特殊部隊などが次から次へと行進していきます。後半からは巨大なミサイルも多数出てきました。後で知ったのですが、このミサイルはアメリカを射程圏に入れることができるミサイルとのことであり、中国の軍事力の水準の高さを感じました。また、軍事パレードには最新型の軍事ドローン（小型無人機）も登場していました。

<建国70周年を迎えての感想>

私が感じたことは、各都市全体が建国お祝いムードに染まっており、その規模が巨大な事です。街全体でのお祝いムードは、少しやり過ぎのようにも感じましたが、国民全員で自国の建国を祝っている雰囲気に対し少し羨ましさを感じました。

<訪日中国人客の最新動向>

ちなみに、今回の国慶節では、中国人の人気旅行先として日本が1位に選ばれたそうです。最近、訪日中国人客の旅行スタイルに変化が現れており、これまでの爆買いなどの「モノ消費」から体験を重視する「コト消費」へとシフトしています。私も国慶節を利用して故郷広島に帰省し、お好み焼きを自分で焼く体験やリニューアルした平和記念資料館の見学、そして温泉に浸かったりするなどコト消費を満喫してきました。

既に何回も日本を訪れている訪日中国人客の旅行スタイルは、大都市圏へのツアーから地方への個人手配へと変化しています。県内企業の皆さんも、訪日中国人客に向けて、広島の豊かな文化や自然、歴史など、広島ならではのコンテンツを楽しむといったコト消費を提供できる企画をされてみては如何でしょうか。